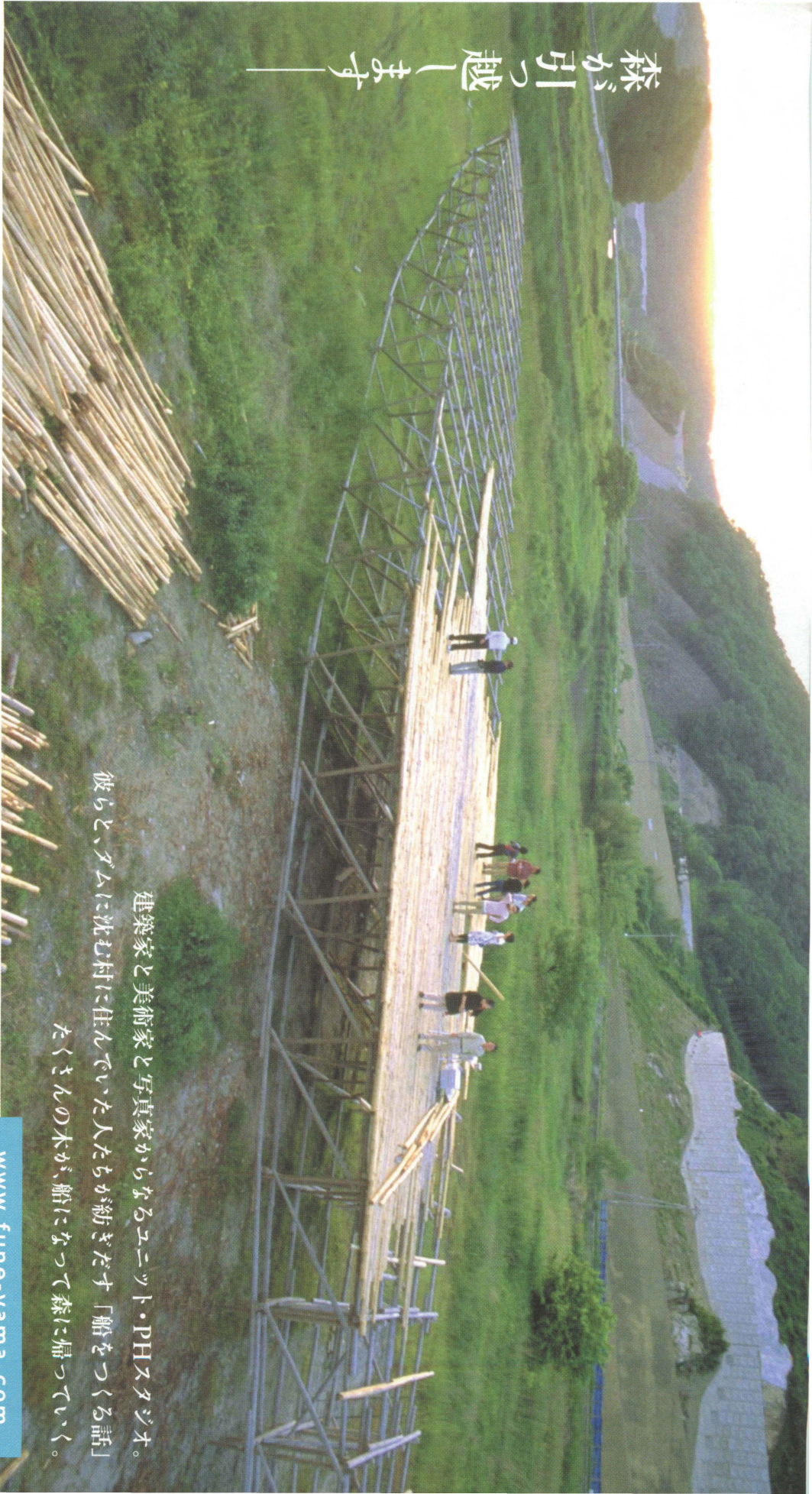


森が引越します——



建築家と美術家と写真家からなるユニット・PHスタジオ。

彼らと、ダムに沈む村に住んでいた人たちが紡ぎだす「船をつくる話」

たくさんの木が、船になって森に帰っていく。

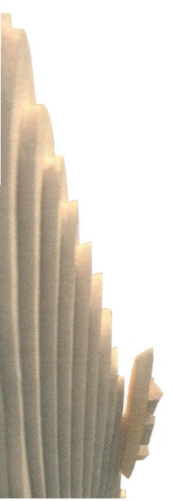
www.fune-yama.com

本田孝義 監督作品

Directed by Honda Takayoshi

船、山にのぼる

The ship
rides on the mountain



船、山にのぼる

The ship
rides on the mountain

本田孝義 監督作品

山の谷間で船をつくる。緑のなかに船がある。

森と緑にあふれた場所がダムに沈むことになりました。ダムの建設で20万本の本木が消えることとなります。それを聞いた建築家と美術家と写真家からなるユニット・PHスタジオは“森の引っ越し”をテーマとしたプロジェクトを思いつきます。

伐採される木で60メートル大の船をつくり、山のとっぺんに移動させる壮大な計画。それが12年にわたる大仕事の始まりでした。

ひとの想いもゆっくり引っ越して、 村の真ん中の大きな木も大移動

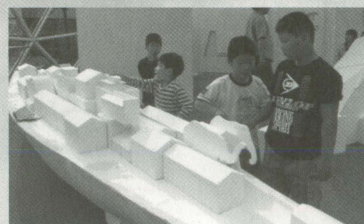
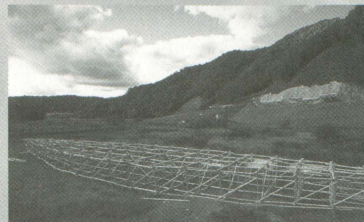
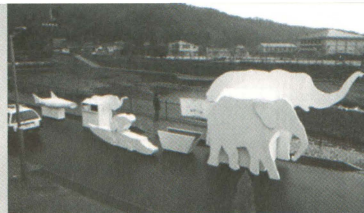
村を流れる川のほとりに500年前からある大きな木。村の人たちが「えみき」というムクノ木が村を見下ろしています。森も木も人々の想いもゆっくり動きはじめたとき、えみきの引っ越しがはじまりました。村は上へ下への大騒ぎ。でも、みんな、昔のお祭りを思い出して楽しんでいるようです。えみきの引っ越しは無事に済むのでしょうか?! そして船は、ほんとうに山にのぼることができるのでしょうか?

たくさんの木が、船になって森に帰るまでの話

広島県北東部の山々に囲まれた旧三良坂・吉舎・総領の3町にまたがる灰塚地域。ここにダム建設の話しが持ちあがったのが40数年前。長い建設反対運動を経て美しいダム湖を残すためにダムエリアの再建が始まりました。それが「灰塚アースワークプロジェクト」です。そのひとつがPHスタジオの「船をつくる話」。ダムに沈む村の谷間に船をつくり、ダムにたまった水で船を動かす——。映画はこのアートプロジェクトを静かに見守ります。

前作『ニュータウン物語』で自分が育ったコミュニティを描いた本田孝義監督は、本作でひとつのコミュニティの中のアートプロジェクトを見つめます。

○製作：ビジュアルトラックス／戸山創作所 ○音楽：風の楽団 ○音響構成：米山靖
○撮影：本田孝義／林憲志／濱子正 ○ナレーター：川野誠一 ○プロデューサー：伏屋博雄
○支援：森文化庁 ○協力：PHスタジオ BankART1929 ○配給：戸山創作所 (TEL 03-5338-9490)
○宣伝：スリーピン ○監督：本田孝義 2007年／カラー／88分／DV



PHスタジオって?

建築家と美術家と写真家からなるユニット(代表:池田修)。発足は1984年。「家具」「家」「都市」といった既成の枠組みを「壊す」というキーワードでそれらの解体と再読を試みようとしている。活動は、美術館やギャラリーでの展覧会、野外でのプロジェクト、建築設計等、多岐にわたっている。2004年12月から、横浜のBankART1929の構築と運営にかかわっている。

PHスタジオホームページ: www4.ocn.ne.jp/~phstudio/

comment.....

藤森照信 (東京大学教授・建築史家・建築家)

話を聞いて、これはノアの方舟計画だな、と思った。映画を見て、これはノアのイカダだと思った。

方舟はアララト山に流れ着き、そこから今の文明は始まったそうだが、イカダは何という山に流れ着いたんだろう。そして、そこから何が始まったんだろう。

森が丸太になり、丸太が舟になり、舟が山に登る。スケールの大きさが、見る人の縮んだ気持ちを伸ばしてくれる。

竹内昌義 (建築家／みかんぐみ)

人を取り巻く環境は単なる物質的な集合ではなく、それまで育ててきた記憶と経験が織りなすテクニスタイルのようなものだ。ダムの建設により日常の場が水没することで、それらは現在と断ち切られてしまう。水の底でつくられ、浮かび上がったこの船は過去と現在を繋ぐ装置であり、水没という事実の象徴でもある。このフィルムは船が単なるオブジェではないことを教えてくれた。

矢内原美邦 (「ニプロール」代表・振付家)

新しいものを獲ると人は古いものを忘れてしまう。それはちょっとせつない。でもそれでよいともおもう。山のうへの船はきっと、忘れないための印なのではなく、この永遠につづく時間の偶然な点として、そこにありつづけるのだと思う。

アートというもの、丁寧に人の気持ちにふれてゆくこと。「えみき」のエピソードを見ながら涙がとまりませんでした。(女性)

ダムの建設にともなう移住に、アートが関わり、住人の方々の想いまでが引越しするという計画はすばらしいと思った。(男性)

クライマックスに向けて、ふるさとがなくなるという切なさがせまってくる。切なさが、心のよりどころが、山にのせられたように心がしめつけられました。(女性)

2008年8月9日【土】～29日【金】 連日11:00～【1日1回上映】
大好評につきアンコール上映決定!

料金／一般:1200円 学生・シニア:1000円 中学生以下:800円
(当日のみ。毎週月曜日、水曜日は一般の方も1000円)

初日・本田孝義監督舞台挨拶、他トークショーあり
(詳細はwww.fune-yama.comにて)
先着30名様にポストカードプレゼント!



UPLINK X

<http://www.uplink.co.jp>

渋谷区宇田川町37-18
ツツネビル2階
TEL:03-6825-5503
【渋谷東急本店右側200m先右手】

